令和8年度 港湾空港X方針について

■ 局区X方針とは

（概要）

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

（目的）

・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進

・局内職員への変革マインドの意識づけ

・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 港湾空港局Ｘ方針について

（１）課題数　全２件

課題領域	Ａレベル	Ｂレベル	Ｃレベル
課題数	―	２件	―
政策分野	―	港湾、空港	―

Ａレベル　　：行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

Ｂ・Ｃレベル：政策的な変革課題（Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等）

（２）課題・取組内容等

・課題Ｂ　港の稼ぐ力の強化（資料１のＰ４）

〇港湾を取り巻く社会情勢等の変化に対応し、北九州港の稼ぐ力を強化・維持していくため、安定的な収益基盤の確保とともに維持管理費用の適正化を行う必要がある。

〇また、産業構造の変化等により生じている既存施設とのミスマッチを解消するため、競争力を向上させるための投資が必要である。

〇そのため、Ｒ８年度には、以下の取組みを行う。

・企業動向の調査、他港事例の研究。

・未利用地等の売却のための候補地選定、方針検討。

・みなと緑地ＰＰＰなどを活用した民間活力導入に向けた意向調査、候補地検討。

・**課題Ｂ　空港の稼ぐ力の強化（資料１のＰ５）**

〇「稼げるまち」を実現するため、成長エンジンである北九州空港を最大限活用する必要がある。

〇また、旅客需要の将来的な拡大に向けて、路線の維持・拡充や空港アクセスの強化、空港の魅力向上・機能強化に総合的に取り組む必要がある。

〇そのため、Ｒ８年度については、以下の取組みを行う。

・朽網駅特急ルートの利便性の更なる向上に向けた利用状況の分析、評価。

・国際線の増便及び運航再開に合わせた、使いやすいアクセスの提供。
（バス待合環境の改善や案内人の配置）

・年間を通じた空港内でのイベント実施や、認知度向上に向けた魅力向上の取組みを実施。

港湾空港局　Ｒ８Ｘ方針

資料１

１　組織の使命（どのような役割を担うのか）

港湾空港局では、北九州市基本構想・基本計画の実現に向け、成長エンジンである北九州港と北九州空港を最大限に活かすために以下の取組みを着実に進めることで、北九州市の持続的な発展を支える。

【北九州港】
〇社会情勢の変化等に応じた港湾機能の強化に取り組みつつ、「港湾施設マネジメント実施計画」の推進等により効率的な港湾経営を行う。
〇風力発電関連産業の総合拠点化の形成に取り組む。
〇カーボンニュートラルポートの形成を目指し、港湾脱炭素化推進計画を推進する。
〇地理的優位性を生かし、新たな航路誘致や、集貨・創貨による取扱貨物量の増加により、物流拠点化を推進する。
〇臨海部産業用地の分譲等により、企業立地の促進に取り組む。
〇クルーズ船の誘致や臨海部における土地利用の再編や民間活力の活用により、みなとの賑わい創出に取り組む。
【北九州空港】
〇24時間空港の特徴を活かし、旅客・貨物の路線の維持・拡充や集客・集貨に取り組む。
〇エアポートバスの利便性向上に加え、鉄道、タクシー、レンタカー等あらゆる交通モードをフル活用し、アクセス強化を図る。
〇ターミナルビルの活用や空港基本施設の基盤強化により、空港の魅力向上・機能強化に取り組む。

２　基本情報

（1）令和8年度局全体当初予算額

一般会計118億円（うち一般財源31億円）、特別会計69億円

（2）組織（部名）（R8.4.1付）

総務部、港営部、港湾整備部、洋上風力拠点化推進部、空港企画部

（3）所管の政策連携団体

ひびき灘開発株式会社、北九州埠頭株式会社、北九州エアターミナル株式会社

（4）所管の主な公共施設（運営方法：直営、指定管理、その他）

指定管理	・港湾施設全般 ・旧門司税関　　・旧大連航路上屋

３　令和７年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り（総評）
・課題Aについては、取り組むべき内容が具体化しているため、迅速に課題解決に着手し、順調に進捗している。 ・課題Bについては、民間事業者等の関係者との協議や、必要な分析・検討を進めつつ、実行可能な内容には課題解決に向け確実に着手した。 ・課題Cについては、課題解決に向けた方針検討に必要となる関係者との協議や調査を進めた。
○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果
・土地売却による収入（約3億円）を得るとともに、未利用地売却に伴う維持管理費の削減を行った。 ・門司港レトロ地区の新浜地区における未利用地に関する意向調査を実施し、現状の民間ニーズを確認することが出来た。 ・空港の稼ぐ力を強化することで、新規路線の就航および再開、特急停車本数や貨物取扱量の増加など、大きな成果が実現した。
○取組・進捗が十分でなかった項目・内容（理由）・令和8年度に向けた考え
・港湾施設における民間活力を活用した施設再編の検討については、施設利用者である民間企業との協議を継続し、施設再配置に向けた検討会を開催する。

港湾空港局 X方針　課題一覧

課題領域Ｂ

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
港湾	港の稼ぐ力の強化	(1)港の能力を最大化するための調査・検討・実施
空港	空港の稼ぐ力の強化	(1)特急停車本数の増便に係る利用状況の分析・評価や国際線増便等に合わせた更なる利用促進及びエアポートバスの待合環境改善 (2)年間を通じた空港内でのイベント実施等による魅力の向上

【凡例】
〇課題領域
Ａ　・行政サービス現場改善にかかる課題
Ｂ　・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの
　　・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
Ｃ　・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4　課題

課題Ｂ（１）港の稼ぐ力の強化【政策分野：港湾】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス	【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

・港湾を取り巻く社会情勢等の変化に対応し、北九州港の稼ぐ力を強化・維持していくため、安定的な収益基盤の確保とともに、維持管理費用の適正化を行うことで、持続可能な港湾運営を実現する必要がある。

③課題の背景や現状

・産業構造の変化や船舶の大型化等により、既存施設とのミスマッチが生じており、競争力を向上させるための投資が求められている。
・一方で、港湾施設の多くは、高度経済成長期に整備され、老朽化が一斉に進行している。
・また、旧5市の各地区に多様な施設が点在しており、各地区の独立性を生んだ一方で、港湾運営の一体性や効率性を阻む要因となっている。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感)－

・持続可能な収益基盤を備えた港づくりを実現する。
① 基幹産業の脱炭素化を目指した産業構造の転換を見据えた北九州港の再編
② コンテナ物流の生産性向上に資するコンテナターミナルの高規格化
③ モーダルシフトの結節点としての官民連携によるフェリー・ROROターミナルの機能強化
④ 低利用施設や未利用地の売却、新産業の誘致などを通じた臨海部産業のさらなる活性化
⑤ みなと緑地PPP制度などを活用した民間活力導入による緑地管理の公共財政負担の軽減、港湾利用者の利便性・快適性・安全性の向上

⑤令和8年度の取組内容(四半期間隔)

(1)港の能力を最大化するための調査・検討・実施
港湾関連企業への利用状況・ニーズ調査等を実施し、既存施設とのミスマッチを把握するとともに、他港事例研究等を通じて、解決手段を検討する。
また、既に進行している事例について、着実な進捗を図る。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
・企業動向の調査 ・他港事例の研究	→	→	→
[西海岸地区施設再編] ・施設利用者調整	→	→	・再編方針の合意形成
[コンテナターミナルの高規格化] ・ニーズ調査・方針検討	→	→	→
[未利用地等の売却] ・候補地選定、方針検討	→	→	→
[みなと緑地PPP] ・意向調査	→	→	・候補地の公募検討

4　課題

課題Ｂ（２）空港の稼ぐ力の強化【政策分野：空港】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：高】【緊急度：高】

②課題の内容

・旅客需要の維持や将来的な需要拡大を支えるため
　〇公共交通アクセスの維持・強化
　〇賑わい、飲食、休憩等サービスを行うためのソフト面の充実による空港の魅力向上
　〇路線の維持・拡充
に取り組む必要がある。

③課題の背景や現状

・北九州市・新ビジョンに掲げる「稼げるまち」を実現するため、成長エンジンである北九州空港を最大限活用することが重要となる。
・こうした中、インバウンド需要の増加や国内外の航空物流の拡大に伴い、空港の役割と価値がますます高まり、空港間競争が激化しており、空港政策を総動員した取組みが求められる。
・こうした状況を踏まえ、空港のポテンシャルと稼ぐ力を高め、より多くのヒトとモノを呼び込むため、空港アクセスの強化、空港の魅力向上・機能強化、路線の維持・拡充の３つの取組を総合的に進める。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

・九州、中四国で唯一の24時間空港である、北九州空港のポテンシャルを引き出し、市民をはじめ、国内外の利用者に、利便性の高い空港サービスが提供されるようになる。
・九州、中四国で唯一国内外の貨物定期便が就航する北九州空港の物流拠点化が大きく進展し、企業活動や市民生活を下支える、利便性の高い航空輸送サービスが提供されるようになる。
・空港そのものの魅力を向上させることで、旅客にとどまらず非旅客も集まり、市の玄関口として活気あふれるエンタメスポットとなる。
・この結果、より多くのヒトとモノの交流が創出されることから、地域経済が活性化し、稼げるまちを市民が実感できるようになる。

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

(1)「朽網駅特急停車本数の増便」に係る利用状況の分析・評価や国際線増便等に合わせた更なる利用促進及びエアポートバスの待合環境改善
　令和8年3月に増便した「朽網駅特急停車」について、特急利用の安定化や特急停車の本数の維持に向けて利用状況の分析・評価を行い、国際線の増便及び運航再開に合わせ、更なる利用促進と屋外のバス待合環境の改善に関係部署と連携して取り組む。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
・利用促進、環境改善 　案内人の配置 ・エアロK（清州線）増便	→	→	→
		・SFJ（台北線）運航再開	

４　課題

課題Ｂ（２）空港の稼ぐ力の強化【政策分野：空港】

(2)年間を通じた空港内でのイベント実施等による魅力の向上
　旅客・非旅客の利用意欲及び働き手の就労意欲を高めるため、地域の資源を生かし、年間を通じた空港内でのイベントの実施や、認知度向上に向けた、空港内外での各種プロモーション等、24時間空港としてのポテンシャルを最大限に引き出す魅力向上に取り組む。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
・開港20周年に合わせた魅力向上の計画策定	・魅力向上・プロモーションの実施	・取組を評価し、次年度予算・計画に反映 ・空港まつりと連携	